

# 議論でなど題

## 9月定例町議会 一般質問



### 防災対策

**問** ①災害を未然に防ぐためには、初期の的確な情報入手が大切だと言われているが、当町ではどのような方法で初期情報を入手しているのか。②現在、備蓄倉庫に入っている備蓄品の内訳は。また、今後の備蓄計画は。③広域避難場所に設置してある手動式のくみ上げ井戸の水質検査等は行なっているのか。

**答** ①災害等の被害を最小限に食い止めるためには、一刻も早く正確な情報を周知することが肝要であると認識している。町へは、津波や台風、大雨等の警報や注意報が、銚子気象台から県の消防防災課を経由して県防災無線により伝達されることになつており、この情報を必要に応じて迅速かつ的確に、災害防止に必要な措置、心得等について町防災無線及び広報車により地域住民の方々に周知することとしている。災害はいつやってくるかわからないのが常であり、役場職員、消防団、自治防災会等と常に緊密な連絡をとりながら対応に当たることが必要と考え、毎年、9月1日の防災の日の前後に防災訓練を実施している。このような訓練を重ねることによって、災害に強いまちづくりができるものと思っている。

②備蓄倉庫は、平成8年度から今年度にかけて、町内の避難場所である各小中学校と敬愛高校、文化会館の6箇所に設置が完了しており、緊急時の備蓄品としては、現在、毛布を四百五十枚、乾パン三千二百七十二缶、水缶千九百八十四缶、発電機六基、ガス炊飯器二十五台、ガスコンろ二十五台、なべ二十五個を備蓄している。更に今年度は、なべとガスコンろを五個ずつ、乾パン二千缶、水缶を千缶、毛布九十枚、シート五十枚の整備を予定している。③緊急災害時における生活用水の確保を図るため、平成8年度に文化会館など5箇所の広域避難場所に手押し式のくみ上げ井戸を設置した。水質検査をした結果、飲料水としては即適当とは言えないが、塩素殺菌等をすれば飲み水にもなるとのことであり、災害等が発生し、地下水を飲料水として利用する場合には、検水を実施して使用するよう指導を受けている。

### 交通安全対策

**問** 町の表玄関ともいえるJR横芝駅前、バスやタクシー、送り迎えの車両が常に行き交っているにもかかわらず、歩道等がなく大変危険である。そして、そのような中を視覚障害の方々

なども横芝駅を利用していただくのが実態だが、今後、どのような安全対策を考えているのか。

**答** 土地の所有がJRであり、町が単独で事業を進めるわけにはいかないが、ご指摘のように車の往来も非常に激しく、歩行者にとつては大変危険な状態となつているのが現状のようである。このようなことから、今年6月に八日市場駅長を訪問し、JRに対して要望書の提出を行なった。その後、9月1日に大網保線区から係官が来庁し、町職員とともに現地視察をしたところであるが、視覚障害者用の点字ブロックを設置するために、まず、歩車道の区分を明確化するための境界ブロック等を設置する必要があるとのことであった。当用地は、千葉交通並



点字ブロック等の設置が望まれている横芝駅前

### 行政運営

**問** ①今年の6月に実施された議会の県外視察に同行しての感想を伺いたい。②このような視察研修は行政運営上どれだけの成果をあげていると思われるか。③住民要望に対する町長の基本的な考え方を伺いたい。

**答** ①昔からよく言われる言葉に「百聞は一見にしかず」ということわざがあるように、私は常々、機会あるごとに見聞し、その視野を広めるということとは非常に大切なことだと考えている。当町では現在、栗山地区に保健福祉センターを建設中だが、その先進地視察ということでも議員のみならず、6月に山形県最上町の高齢者総合福祉センターを視察した。高齢者比率の高いこの町は、早くから健康福祉を重点施策として取り上げ、過疎と高齢化という二つの課題を克服すべく、この福祉センターを建設したそうだが、この施設は、保健所の機能